

第 7 7 回東北地方交通審議会
船員部会 議事要録

平成 27 年 3 月 20 日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会

第77回船員部会

日 時 平成27年3月20日(金) 15:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、高橋部会長代理、佐々木委員、
船津委員(欠席)
労働者委員 : 紺野委員、正路委員、鈴木委員
使用者委員 : 佐藤委員(欠席)、鶴本委員(欠席)、湯村委員

運輸局 : 矢島海事振興部長、村木海事振興部次長
遠藤船員労働環境・海技資格課長
鈴木船員労政課長
佐々木労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について
(2) その他

配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(平成27年1月分)
資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
資料4 新規求人・求職数(全国)
資料5 有効求人・求職数(全国)
資料6 有効求人倍率(東北管内)
資料7 有効求人倍率(全国)
資料8 平成26年船員職業安定年報(抜粋)
資料9 交通政策基本計画について
資料10 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【村木海事振興部次長】

〔第77回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは、議事に入りたいと思います。

お手元にあります議事次第の議題(1)管内の雇用等の状況について、事務局の方からご報告願います。

〔鈴木船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

金融緩和の影響で流通業界が流れ易くなっている。漁業についても求人がという話ですかね。

ただいまの報告内容につきまして、何かご意見、ご質問等ございましたらどうぞ。湯村委員、よろしいですか。

【湯村使用者委員】

やはり船員不足、内航の方ですかね。船員不足というような話を聞きますけども、こういった数字を見ますと、もう現実のものになっているんだなという感想ですね。

【長谷部部会長】

実感と、はまっているという話ですね。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。船員不足の状態がより顕著に出てきている感はありますね。1月分のデータなので、今はもう3月になっていますので、直近のデータは、手元にないんですけども、傾向はもっと強まっているのではないかという感じは持っています。

(2) その他

【長谷部部会長】

それでは、議題(2)のその他に入ります。

まず、添付資料8について事務局から説明をお願いします。

〔鈴木船員労政課長より資料8に基づき説明〕

【長谷部部会長】

ありがとうございます。何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。鈴木委員、いかがですか。

【鈴木労働者委員】

別に大丈夫です。求職が大分、減っているということなんでしょうね。船員がいなくなっているということなんでしょう。

【鈴木船員労政課長】

そうだと思います。

【鈴木労働者委員】

団塊の世代も…。

【鈴木船員労政課長】

団塊の世代が定年で辞めても、また再雇用でずっと今までしのいできたのが…。

【鈴木労働者委員】

それも効かなくなってきたということですね。

【鈴木船員労政課長】

もう70過ぎになってきたので、本当の引退となって減ってきているのではないかと…。

【長谷部部会長】

このままいくと何か起こりそうですね。

【鈴木労働者委員】

新規の船員さんが少ないということですね。

【長谷部部会長】

正路委員は何かありますか。

【正路労働者委員】

ないです。

【長谷部部会長】

よろしいですか。起こりつつある事態をもっと見ていきましょう。ありがとうございます。

それでは、何もなければ了承していただいたということで、先に進みたいと思います。

〔村木海事振興部次長より資料9に基づき説明〕

【長谷部部会長】

ありがとうございます。何か質問、ご意見等ございますでしょうか。

国の交通政策に関する基本的な情報ですね。どういうものであるか説明がありました。湯村委員、何かございますか。

【湯村使用者委員】

意見じゃないんですけども、モーダルシフトについては、随分以前からCO₂排出量の削減ということの手段として叫ばれてきましたけど、ここに来てようやく荷物によっては動き出してきています。

ただ、荷姿がコンテナとか、ばら積みで運べるような荷物はまだ出てきていないので、内航の船会社でも、一部の船主に荷物が今流れているような状況です。

【村木海事振興部次長】

そうですね。内容的にはトラック輸送から鉄道、或いは船舶の方に転換して、そちらの方で輸送をするというような形でこの基本計画の中にも書いてあります。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。他にございますか。

【高橋部会長代理】

5 ページの目標の③の右下に書いてある積載率のところの「トラック輸送の受け皿に」というのは、どういうことなのか意味を教えてください。

内航と鉄道貨物をトラック輸送の受け皿にするという意味ですか。

【村木海事振興部次長】

トラック輸送を転換というところですか。

【高橋部会長代理】

増やせと…。

【村木海事振興部次長】

モーダルシフトで、輸送方法を鉄道或いは船舶の方に転換させ、またCO₂の排出量も少なくして、まとめて大量に輸送する方にシフトするという形になっております。

加えて、陸上の労働時間の関係もありまして、休息时间とかもあって、なかなかトラックでの輸送がかなり厳しい状況になっているところもあります。船舶で一度に大量に輸送しましょうということです。

【高橋部会長代理】

ごめんなさい。内航だって船員不足になっているのに、更にそれをトラックの輸送を減らして内航と鉄道でやろうというのは、そもそも現実的に矛盾しているんじゃないかと思ったので、どういう意味なのかなとちょっと思ったんですけども、そういうことですか。なるほど。

【村木海事振興部次長】

陸上でも、トラック運転手の不足が問題になっておりまして、大きい船であれば大量に持っていけるということで、モーダルシフトになるということです。

【長谷部部会長】

全体的に人口減少と高齢化というものを考慮しない。

【村木海事振興部次長】

船の方でも、船員さんの不足というのが問題にはなっているんですけど…。

【高橋部会長代理】

それは、やっぱり現実の動きを無視している。

【村木海事振興部次長】

陸上でも、トラック運転手が不足しているというところが、背景にあるということからだと思います。

【鈴木船員労政課長】

微妙ですね。確かに矛盾していますから。

【高橋部会長代理】

だから、トラック輸送は確かに、トラックの担い手が少ないというのは、現実にあるんだけど、内航で船員が不足しているという問題はなしにしていいいのかという両方が現実の問題化している訳で、それを考えて、じゃあどうするかということです。これは国策ですから。

【鈴木労働者委員】

船員の場合、内航船も外航船もそうですけども、今、国の施策として、増やそう

増やそうとしているのもあるので、陸上のトラック運転手の方は、そうはいかないでしょうからね。やっぱり、若干考え方は違うんでしょうね。

【鈴木船員労政課長】

この計画自体、つくった人の思い入れもあると思うんですけど、多分トラックの方をメインで作文したので、トラックメインで、じゃあその分どうしましょうということで、それを内航の方にちょっと頑張っただぶってもらいましょうみたいな、そんなニュアンスの書きぶりとも言えますね。

【長谷部部会長】

海事振興部門の発言力が弱かった。

【鈴木船員労政課長】

ということも…。

【高橋部会長代理】

さっきの課長の説明をずっと聞いているもんだから、それでこっちを見たので、ちょっと違和感を感じたというのがありますね。

【鈴木船員労政課長】

人手不足問題は、運輸産業全般の問題で、それはもう、陸上も海上も同じように不足しているということが現状ですので、確かに船の方が余裕があるからトラック輸送の分をかぶれるかということ、確かにそういう単純なものではないと思います。

この書きぶりがちょっと微妙ではありますが、いわゆるモーダルシフトによって、トラック1台分の運べる量と船の運ぶ量というのは、格段に差があるので、要はその意味では省力化になるでしょうと。

【鈴木労働者委員】

それとCO₂の関係もあるということですね。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。環境対策としてもいいという部分で、よりいい方向にそれが行くんじゃないかという流れですね。

それと船員不足対策は、また別個の問題として頑張っていかなければならないという話になります。

【長谷部部会長】

ちょっと素人っぽい質問なんですけども、鈴木委員にちょっと教えてもらいたいと思うんですが、ここにも女性の労働力の活用ということが言われていますが、漁船も含めて、船員の世界に女性が入ってくるということはどれくらい実現しつつあるんですか。それとも不可能なんですか、ちょっとそこら辺の見通しを…。

【鈴木労働者委員】

漁船は、ゼロに等しいんじゃないですか。

【長谷部部会長】

そもそも無理なんですか。

【鈴木労働者委員】

はい。漁船の方は力仕事メインなので、女性にはちょっときついのかなと思うのと、内航船でも結構ありますよね、今は。（「そうですね」の声あり）

漁船で沿岸の小さい船には、親子とか、夫婦みたいな関係で乗っているところも

あるけれども、船員手帳を使ってやっている中（船員法適用船）では、ちょっといないんじゃないですかね、漁船の方は。

【長谷部部会長】

可能性もないですか。

【鈴木労働者委員】

多分ないような気がします。

【鈴木船員労政課長】

昔に比べれば、内航船関係は…。

【鈴木労働者委員】

内航船関係は大分入ってます。

【鈴木船員労政課長】

海技短大・海技大学から、いわゆる女性でも採用されるというのは、徐々にではありますが数はいますので、昔に比べればそういう意味で女性は増えていると。

この女性活用というのも、さっき言ったように、これもトラックメインの話が下地にあって、要は男性のトラック運転手が足りないので、女性ドライバー、トラック運転手でもバス運転手でもタクシー運転手でも、女性をどんどん入れてきて、いわゆる運転手不足を何とか解消しようという流れが陸上輸送の方ではあるので、それメインの言葉ですね。

先ほどお話ししたように、海関係では、まだそこまで女性進出は進んでないので、これから徐々に増えていくという流れではあります。

【長谷部部会長】

でも、漁船の世界というのはちょっと難しいから、女性がそちらの方に新規に参入していくというよりは、むしろ外国人が、船員労働力というようにいっちゃうんですかね。

【鈴木労働者委員】

そういう方向に行くということなんでしょうね。

【正路労働者委員】

ちょっと1つよろしいですか。

5ページの③の下部の方なのですが、今話が出されているバスドライバーというところの文言なのですが、こういうように書いちゃうと、まずバスドライバーの労働時間が全産業の平均の1.2倍、所得が0.8倍というのを書いている中で、女性の参画というものが、果たして適するのかなのか。

この条件をどうにかしてというのがあればいいんですが、労働は1.2倍けれども収入が0.8というところがどうなんだろうかと。

そこを国交省でも認識しているのであれば、少しでも改善をしてというようなニュアンスでもいいんじゃないのかなと思います。それとも調査した結果がこうですということなのか。

【村木海事振興部次長】

先ほども申しましたとおり、中央の審議会の方で諮っている内容で、若干のパブリックコメントを受けて、内容に修正等を加えた結果がこちらの表、これは概略版になりますけれども、大もとの基本計画というものがありまして、もちろんホーム

ページの方にも掲載されている訳ですが、内容的には審議会委員による審議を経た結果がこの基本計画ということになっています。

【鈴木船員労政課長】

現状をここに書いているということで、バスドライバーという職種の実態が、今こうですというのを書いてあるだけととっていただくしかない。いわゆる陸上産業の育成とかというのは、国土交通省も当然絡みますけども、陸上産業なので厚生労働省の方の管轄の部分もあります。

待遇改善云々は2つの省で対策を練っていくと、当然このままでいいという話にはならないので、待遇改善の色々な施策が今後出てくると思いますが、現状の認識として、今こういう状態で、3Kではないですけども、負担の大きい職種ですという現状認識ですというようにとっていただければいいということです。

【正路労働者委員】

自分が引っかけたのは、これまでの取り組みを更に推進ということですから、現状はこうですと、それでその先に何があるんだろうか。推進する目標値がこの下にないもので、ちょっと引っかけたところです。

【鈴木船員労政課長】

これは交通基本計画の概要説明なので、この下に色々な施策の細かい部分がこれから出てくるので、これは、大もとの部分ということで理解していただければ、細かいところはこれから出てきますので…。

【長谷部部会長】

という批判も当然あり得るということで、宣伝普及に努めていただきたいということでしょうね。

佐々木委員は何かございますか。

【佐々木公益委員】

基本計画とは、ちょっと違う話なんですけども、求人と求職があって、成立というのがあって、全然本当に素人の感じなんですけれども、その成立の数というのがすごく少ないんですけど、何でそういうように求人・求職の数と成立の数にそういうギャップが生まれているんですか。

【鈴木船員労政課長】

成立数が全然少ないですねというのはおっしゃるとおりなんですけども、成立というのは、求人が出てきました、求職も出てきました、役所の方に出てきました。

それで役所の紹介状をもって就職が決まったといったのを成立というように定義づけしてあります。

なので、自分で仕事を探して自分で決めた、役所の仲介、紹介状は取っていないものはカウントされていません。

あくまでも役所が受けて、役所が紹介した結果、採用となったというのが、全国で100件ちょっとですかね。

そういうことで、実際には自己就職といって自分で探して自分で決めてきたというのもあるので、それを含めば、いわゆる採用件数、就職件数は多いんですけども、うちの方で紹介状を出して採用したというものしかカウントできないので、数字上はこのようになっています。

【佐々木公益委員】

そうすると、就職は求人のうちそれしか決まっていなくて、そういう意味ではないんですね。

【鈴木船員労政課長】

ではないです。あくまでも役所の方でカウントできるのが成立ということで、うちの方で紹介状を出して、決まった件数ということです。

【佐々木公益委員】

実際決まったものというのは、統計では取れないんですか。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。その後のデータ取りをしていないので、他の労働統計の方で、職種或いは業種別に年間の集計を取っている統計もありますけど、職安業務的には、そういうカウントをしていないので、実数的にはつかめません。

【佐々木公益委員】

なるほど。結果的に就職数の絶対数が分かると、その差が実際自分で探して就職した人数と、そういうふうに結果的に分かるということですね。

【鈴木船員労政課長】

あと、一応探したけれども、いいのがないから諦めたという人も出てくる訳です。全員が就職決まっているかということそうではないので、決まらない人も当然いる訳です。

船を諦め、海上職を辞めて陸上の方に行くとか、或いは高齢だと年金受給の方に、もういっちゃんとかといった人もいますので、単純に引き算でみんな就職しないかということ、そういう訳ではないということになります。

【佐々木公益委員】

分かりました。

【村木海事振興部次長】

求職票の有効期限が基本的に1ヶ月なんです。

あと失業保険受給者につきましては、支給終了までということになっているんですが、満了した1ヶ月後に就職が決まると、もう数字的には何も出なくなってしまう、自然に取り下げというような格好にしかならないということで、自然に消えてしまうのも結構数字的には多い人数になるかと思えます。

【佐々木公益委員】

月をまたぐと次の月の成立になるということもある訳ですか。

【村木海事振興部次長】

求職票が切れちゃいますと、実態がつかめなくなります。

【鈴木船員労政課長】

例えば、2月に求人・求職出てましたとあって、3月になって採用決まったと言えば3月の件数、成立としては3月の件数。

求人・求職は出た時なので2月の件数、ただ、持ち越しちゃえば、今度、新規ではなくて月末未済ということでカウントされます。

続いているれば、2月では新規1件、3月では月末未済で1件ということで、足して2件になるんですけれども、実際上は1件のものなんです。

この辺は統計のトリックというか、統計のそういう定義付けですということです。

【佐々木公益委員】

入った時と、月末で二重にカウントするみたいな感じですね。

【鈴木船員労政課長】

実数的にはもっと少ないけども、カウント上はどんどん増えていくということです。

【佐々木公益委員】

分かりました。

【長谷部部会長】

職安業務の一環として出てくるものですから、それを私たちが市場の動向を見る一つのセンシングのデータとして使うということから出てくることですね。

だから、全体の動きのある部分を代表しているという、シンボルのような形で受け取ったらよろしいのかなというように判断して、これが実数だと、実態だというように考えない方がいいのだというふうに勉強させていただいております。

よろしいですか。私も分からないこといっぱいあるので、どうぞ気軽に質問して下さい。

ということで、色々問題あるかもしれませんが、全体はこういう政策基調の中で動いている時代だという、そんなご了解をいただければありがたく思います。

それではよろしいですか。（「はい」の声あり）

では、これでご了承いただいたということで次に進みたいと思います。

〔矢島海事振興部長より新聞情報（下北地域の活性化検討会）について説明〕

【長谷部部会長】

ありがとうございます。今日佐藤委員が来ておられないので補助的な情報がいただけないと思いますが、将来性はどんなものがあるんですか。

以前に情報は色々聞いたことがあったものですから、久しぶりで聞きました。

【矢島海事振興部長】

非常に季節的なんですね。いわゆるもう夏場の一時期はお客さんが結構乗っていただけるんですけど、それ以外はお客さんが本当に少ない。

船は96人乗りなんですね。それでかなり（輸送実績が）低い状態になってしまっていて、特に、佐井村などは人口減少が、大体2,200人ぐらい今いるんですけども、年度末をまたぐと、多分2,000人を割るおそれすらあるというぐらい人口減少という状況となっています。

ですから、この船を使っている方はもちろん、観光も多いんですけど、地域の人口というのはそういう形で減って、通院ですとかそういう人たちのいわゆる生活航路としての位置づけなんですけども、いかんせん人数が減っていく中において、いかにして航路を維持していくかとなると、もちろん補助金ということで今運営しているんですけど、それをもっと前向きに捉えると、地区を活性化、いわゆるできるだけ多くのお客さんに来ていただくということで、仏ヶ浦という観光名所がございますし、こういうところもできるだけうまく生かし、または温泉とか、今後旅行エージェントを呼んで何か色々といい案をもらいながらとか、今でもPR活動はやっているんですけども、更にその活用をどのようにやっていったらいいのかというこ

とを議論していきたいなと思っております。

【長谷部部長】

まだそこまでいかない、具体的な話までいかなかったということですか。

【矢島海事振興部長】

そうですね。1回目ですので、まず課題整理といたしまして、今のところ観光ですとか、それからもちろん事業者の自助努力もございますけれども、航路的に一番いいのは、やっぱりお客さんがちゃんと乗っていただけるのが一番美しい姿だと思うんですね。

いわゆる国の補助でもって運航しているというより、やはりできるだけお客さんが乗っていただいて安定的に動いていくというのが一番いいと思いますので、そういう観点から、できるだけお客さんに来ていただくというのをいかに進めたらいいのかなと考えていまして、そういう意味で、この青森～佐井航路を中心とした下北地域のまずこういうお客さんをいかに呼んでくるかというところを、このたび議論していきたいと考えております。

【長谷部部長】

これは、例えばアジアの観光客を呼ぶということとか何かありますか。

【鈴木労働者委員】

うちの担当なんです。八戸の海員組合が担当になっているんですが、昔から赤字でずっと続いています。

とりあえず陸続きなんですけど離島航路なので、ずっと補助でやってきています。

補助が少ない中で頑張っているんですが、今言ったように過疎化というか人が年々減ってきていて、プラス要素がないと言えない。私が担当していて申し訳ないですけど、何かそういう、余りいい方向性が見当たらないんですよね。

【矢島海事振興部長】

そうですね。これ、いい案が1つポンと出てきて、はい、これでできましたというようにいい話はなかなか難しいと思います。

【鈴木労働者委員】

1つは、東北の震災があって、船が活躍した震災だったので、それでちょっと生き残りが図れないかと、一時期そういう話もあったんですが、頓挫したというか、話が前に進んではいけないですね。

【矢島海事振興部長】

そうですね。今後、北海道新幹線が函館まで延伸されていくということなので、そういうところでできるだけ活路を見いだして、あと函館との連携、函館にはお客さんが結構いらっしゃるそうなので、青森にもそのお客さんがちょっと寄っていただくと、なおいいのかなとは思いますが。

あとは観光的な面でいうと、やっぱり宿泊施設をどう確保するのかということもありますし、それからその宿泊施設まで行く交通手段をどうするのか。いわゆる船だけというよりは、いかにアクセスと施設的な面というのもどう考えていくのか。したがって、船頑張っただけだと、なかなか非常につらい面があると思いますね。

【鈴木労働者委員】

ちょっと難しいですね。

【村木海事振興部次長】

あと補足しまして、離島側から1日2往復運航しているんですけど、青森市側からは、1日1往復にしかないという実態もあります。

どうしても離島民のための生活航路ということで、離島の方から2往復という形にしかできないというです。

あと、宿泊関係で言いますと、離島側がせいぜい15人ぐらいの民宿しかなくて、ホテルというと、例えばむつ市とかそちらの方に行かないと無いということもありまして、観光客もなかなか呼べないということで、今のような状況になっているかと思えます。

【長谷部部会長】

シラインの活用、ここからボトムアップで行くよりは、もっと観光開発がバーンとある中でこれを位置づけるとやった方がというか、そうでないとだめみたいな感じですね。

数年前に何かこれを聞いたことがあって、その時も同じコースで、それがもっとひどくなったということで、何かちょっとがっかりするような感じです。（「観光課も入るんでしょう。」の声あり）

【矢島海事振興部長】

そうですね、うちの観光部局も一緒にやっぱり考えていますね。

そういうインバウンドのお客さんも含めて、どう集客したらいいかということになっております。

いかんせんまだ1回目で、要するに年3回開いて、先ほどおっしゃいましたように、やはりこの方法があるから、さあお客さん来ましたというのはなかなか、そういうウルトラCがあればいいんですけど、もしもいい知恵がありましたら、またご参考に聞かせていただきながらやっていきたいと思っております。

【長谷部部会長】

金ですね、開発の資金ですね、基本的に。

どうもありがとうございます。こういう問題があるということをお私たちも心にとめていきたいと思えます。

その他ございますか。

無ければ、それではご了承いただいたということで、委員の皆さんからの情報提供等ですが、労働者委員からないですか。

【鈴木労働者委員】

八戸で海技講習が4級、5級の甲板、機関がありまして、1月から3月9日までやっていたんですが、航海8名、機関が13名筆記試験を受けまして、臨時の…。航海は全員受かったんですが、機関の方が4名不合格という結果になっています。口述の方は、27日にならなければ分からないということですよ。

何かうわさでは全員大丈夫じゃないかという話もちらっとは聞こえてきていますけども、4名の不合格ということで報告です。

それと、東北の各水産高校の就職状況と進学状況というんですかね。北からいく

と、私が担当している八戸、八戸水産高校の進路状況ですが、専攻科に10名が進学して、内訳は漁業科に6名、機関科4名です。

あと、今日（船津委員が）いないですけども、宮古の海上技術短期大学校に2名、清水の海上技術短期大学校に1名です。就職状況としては、本科生4名が漁船2名とフェリー2名に分かれて就職しています。専攻科生が11名いたんですが、全員が船に乗っています。内航船が9名、タグボート1名、実習船1名ということです。

気仙沼向洋高校は、本科生が漁船2名、内航船2名、専攻科は卒業生が6名いたんですが、漁船2名、内航船3名、あと官庁船に1名ということです。

いわき海星高校ですが、進路状況として専攻科に20名、甲板6名、無線通信8名、機関に6名です。

就職状況は、本科生4名が漁船に行っています。専攻科生9名が卒業して、漁船3名、内航船2名、港湾船4名、以上です。

【長谷部部会長】

良好であると…、ありがとうございます。他に…。

【正路労働者委員】

追加で、いわき海星高校なんですけど、去年は本科の卒業生で船に乗った方がおりませんでした。

今年、久しぶりに本科の卒業生が漁船に乗るということで、学校の先生も喜んでいました。

【長谷部部会長】

良かったです。活性化していただくとありがたいと思います。

他にございませんでしょうか。

それでは、使用者委員の方からということで、湯村委員だけですけどもお願いします。

【湯村使用者委員】

新しい話題はないんですけども、今春闘の最中で、今月末ですか、大体回答が出されると思うんですけど、こういったご時勢ですからある程度のところで決着するという見通しはつくんですが、大手さんとほぼ同じ率ぐらいでのアップになりそうですね。（「いいですね。」の声あり）

我々といたしましては、ご承知のとおり、よくシャンパンタワーで例えられますけど、どちらかという内航業界は下の方で、上からなかなか垂れてこないのが非常に、認めざるを得ない、船員不足という状況もあるので、やっぱり魅力ある職場としてアピールしなきゃいけないというところでは、賃金アップはどうしても避けて通れないところなので、ある程度のところは覚悟はしているんですけど、非常に苦しい中での決断になると思いますし、こういった賃上げに対するそのコストを補えるだけの材料を今は業界としては何も持っていない状況なので、非常に苦しい決断になると思います。

【長谷部部会長】

なかなか大変でしょうけど、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、よろしいでしょうか。他にございますか。

【鈴木船員労政課長】

最後に、皆さんのお手元にチラシ2枚と、クリアフォルダーを配っております。

先ほど、業務取扱現況で船員不足問題の話をいたしまして、この資料を水産高校の方に送ったりして、先ほど労働者委員の方からも水産高校の就職状況の話がありましたけれども、まだまだ少ないので、こっちの方から漁船でも内航船でも就職を増加させたいということで配っております。

あと、資料を付けていませんけど、関東から西の方では、今船員不足の問題が深刻ということで、全くの素人さんでも乗せましようみたいな話があります。

具体的には、海上実歴も必要ないでしょう、資格も必要ないでしょうという求人については、ハローワークの方に同じ情報を提供して、こちらの方からも船の方に来てもらうというような動きを活発化させてきているという状況にあります。

管内については、まだそこまでいっていないんですけども、積極的な情報提供ということで、ハローワークにも、うちの方からも何件か求人情報を流しているといったところです。以上です。

【長谷部部会長】

努力しているということですね。事情をお酌み取りの上…、これは色んなところに配ったんですか。また、たくさん配るんですか。

【鈴木船員労政課長】

水産高校の方には45枚ずつ8ヶ所です。

今月初めに水産高校の先生方が集まる会議がありましたので、その場で配りまして、その後、郵送もいたしました。

【長谷部部会長】

なるほど、大変ですね。しかし、何か少し実態と合わないような気もするんですが。

【鈴木船員労政課長】

まずは、内航船というのがあるんですよということをまず知っていただくと。

ざっくりこんな感じですよというのを紹介して、実際に応募してきた時には、海の仕事は甘くないよということで、でも頑張りなさいみたいにしてやっていくという、そんな流れですね。

【長谷部部会長】

分かりました。頑張っていたいだきたいと思います。よろしく願いいたします。

その他、ありませんか。

ありませんでしたら、本日の議事、終了とさせていただきます。

次回の船員部会は、4月24日金曜日の15時30分から、この4階の会議室で開催いたします。

◎閉 会